

施設紹介

東田エコクラブ

木造で大きな窓ガラスが特徴の東田エコクラブには里山を考える会を含め8団体が入っている。太陽の光が差し込む開放的なクラブルームは会議以外にも最近では地域の方が利用するようになった。ここでは日本人の知恵の詰まった“里山の考え”をもとに持続可能な社会づくりのための事業やイベントの企画、運営を行っている。北九州スマートコミュニティ事業においては、住みやすいまちにするための知恵が



集まる場所として、企業・行政・住民の方など多くの方が訪れる。人の基礎は「食」。そのため「食べられる庭」をコンセプトに庭を作っている。裏にあるコミュニティガーデンは地域の方に開放し、気軽に家庭菜園を行うことができる。

■ブログ：<http://nposatoyama.blogspot.com/>

北九州市エコライフプラザ

暮らしのレベルでできる環境への取り組みを知っていただくための生活密着型の施設。商品そのものの良さを知っていただき、オトクで楽しく、自分にできる環境への取り組みを行う手助けをする。エコ商品や子供服のリユース品の販売、ワークショップなどを通じて、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進や、グリーンコンシューマー（地球に優しい消費者）の育成、エコライフスタイルの提案を行っている。ワークショップは古布ぞうり作りや、食育をおいしく楽しく学ぶセミナーなどを定期的で開催している。



- 場所：北九州市小倉北区浅野3丁目8-1 AIMビル2階
- 年間来館者：27,889人
- 主な活動：エコ商品、リユースグッズ、フェアトレードグッズ販売
エコをキーワードにしたワークショップの開催
- ホームページ：<http://www.ecolifeplaza.com/>
- ブログ：<http://eco-life-plaza.blogspot.com/>

北九州市環境ミュージアム

身近な環境学習・交流総合拠点施設として、年間を通し多彩なイベントを開催。館内を“きづき”や“理解”を深めていただけるようガイドが案内し、展示やワークショップを通じて環境問題やエコライフの提案を提供している。2012年の4月から入館料が無料になり、館内もリニューアルする。

環境ミュージアムの敷地内にある北九州エコハウスは「見て」「感じて」「学べる」21世紀の環境共生型モデル住宅。ライフサイクル全体で環境負荷低減が可能な住宅設計手法を活用している。エコハウスの快適さや工夫を直接体験してもらい、環境と共生できる住宅の有用性を提案している。

- 場所：北九州市八幡東区東田2丁目2-6
- 年間来館者：104,973人
- 主な活動：来館者・団体の環境学習、イベントの開催等
- ホームページ：<http://eco-museum.com/>
- ブログ：<http://ecomuseum123.blogspot.com/>

山田緑地

「30世紀の森づくり」をコンセプトに、人と自然をつなぐ自然公園。身近な自然に気がつく第一歩となるようなプログラムやツアーを提供する。小倉街のすぐ近くにも関わらず四季折々の花が咲き、野鳥が迎えてくれる大自然が広がっている。日本最大級のログハウス「森の家」にはそうした自然の展示や会議室、講習室があり、ピアノコンサートや会議にも使うことができる。従来の自然体験プログラムに加え、平成23年度からは自然を活用したよりよい子育てのための取り組みにも力を入れている。



- 場所：北九州市小倉北区山田町
- 年間来園者：65,000人
- 主な活動：自然体験プログラムの開発・実施、自然ガイド、各種イベントの企画運営、森の育ち場 みちくさ
- ホームページ：<http://yamada-park.com/>
- ブログ：<http://yamada-park.blogspot.com/>

里山なう スタッフ数 26人

東田エコクラブ 7人
 北九州市環境ミュージアム 12人
 北九州市エコライフプラザ 4人
 山田緑地 3人

平成24年度新入職者 3人（新卒採用1人・中途採用2人）
 平均年齢 約37歳
 出身地 北九州市内11人 / 福岡県内3人 / 九州内2人 / 九州外10人
 平成24年度4月現在

平成23年度 活動報告



平成24年4月

特定非営利活動法人 里山を考える会

平成 23 年度活動報告

持続可能なライフスタイルとは、自然の回復力をこえない範囲で暮らしていくこと。
そんな知恵が詰まった昔ながらの「里山的考え方」で、都市でも農村でもできる暮らし方を提案しています。

セグウェイネイチャーツアー

セグウェイに乗って山田緑地の豊かな自然の中へ入り、ネイチャーガイドを受けることができるプログラム。セグウェイを使うことによってこれまで自然に興味の無かった人にも自然の魅力を伝えることができる。日本でも数少ないセグウェイによるネイチャーツアーで、インストラクターによる丁寧な指導を受けることができるので誰でも安心して楽しめる。参加者からは「楽しかった、自然がとても気持ちよかったです」などの声が多く聞かれ、県外からの参加者も増えている。



■実施場所：山田緑地
■累計参加者数：50人

北九州里山トラスト会議

人の手が行き届かなくなった里山を市民の手で再び活用するプロジェクト。土地の所有者・林業関係者・一般からなる委員会が、定期的に竹林整備や自然観察会を行い、里山を楽しみながら保全していく。今回で第3回目となった里山祭では、竹の食器作りや、自然の中でのオカリナ演奏などをして、多くの市民に里山の恵みを感じてもらうことができた。



環境体験科

北九州市教育委員会との協同事業。市内の小学校4年生を対象に体験活動を取り入れた学習を行った。自ら行動することや自然環境に対する意識や姿勢を育むことをねらいとしている。

<山田緑地>

季節や天気に合わせて自然を楽しみ、体験し、自ら発見ができるような山田緑地オリジナルプログラムを実施。自然に親しみ、環境を大切にすることをきっかけになったようだった。



<環境ミュージアム>

施設のガイドが学校ごとにオーダーメイドした環境学習プログラムを実施した。



足湯を製作しました！

水素の実証実験施設でもある東田エコクラブには、水素で発電をする燃料電池が設置されている。水素を使い燃料電池で発電をすると熱が発生し、その排熱で水を温水にしてエネルギーを無駄なく使う仕組みになっている。その温水を有効に使うため、東田エコクラブのスタッフがお手製の足湯を製作！東田エコクラブの訪問者を地球に優しいエネルギーで足下から癒した。



森の育ち場 みちくさ

0歳児～3歳児の子どもとその保護者に対し、山田緑地の豊かな自然の中をゆっくり、のびのびと過ごす場を提供したいと、「森の育ち場 みちくさ」がスタートした。週に1回、山田緑地に参加者が集まり、子どもが自然の中で発見やきづきを得る場、保護者同士の情報交換の場になっている。子どもも保護者もリフレッシュできることから、リピーターも増えている。



■実施場所：山田緑地
■累計参加者数：900人

IKUJINGイクジン

「IKUJINGU(育児ing)」とは、子どもと同伴出勤することにより「育児」と「働く」ことの融合を図る取組で、女性の社会進出に伴う待機児童問題などを解決する一つの社会への提案として山田緑地スタッフが実施している。この取組により、「森の育ち場 みちくさ」の実施など、母親目線から山田緑地の新たな利用方法や使いやすさを考え、改善することができた。



■実施場所：山田緑地

すくすく子育てフェスタ

西日本総合展示場で開催された「すくすく子育てフェスタ」に出展。子ども連れの親子が多く集まるこのイベントで、カラダにやさしいエコ商品販売した。特に洗剤を使わず汚れを落とすことのできるアクリルたわしは子どもの肌にも優しいため、子どものお手伝いの道具として好評だった。このイベントに出展したことにより、若い親子にエコライフプラザの情報を提供することができた。



■実施場所：北九州市エコライフプラザ
■開催日：平成23年12月23日

フェアトレードフェア

フェアトレードとは、より良い取引条件を提供することで、生産者や労働者の権利を確保し、持続可能な発展に貢献する貿易のこと。毎年クリスマスやパレインタインに合わせてフェアトレードフェアを開催している。コーヒーの試飲やクッキー、チョコレートの試食などたくさんの商品を展示・販売することで、実際に商品に触れていただき、フェアトレードを幅広く紹介することができた。



■実施場所：北九州市エコライフプラザ
■開催日：平成23年12月18日
平成24年 2月5日

竹灯籠@小倉イルミネーション

北九州市内の里山から切り出した竹を活用するために、竹に色々な形の穴を空け、竹灯籠を製作した。竹灯籠は小倉の市内に設置され、その柔らかい光は、電飾のイルミネーションとは一味違った趣を見せ、街行く人々の目を楽しませた。イベント終了後、灯籠は平尾台で炭に変身し、市内で資源が循環するサステイナブルな取組となった。



■実施場所：北九州市小倉北区都心部
■開催日：平成23年12月21日～25日

第6回もりフォーラム

認知症の方やその家族など様々な人に自然の中に身を置き、ゆったりと自然とのふれあいを楽しんでもらうイベントを開催。ボランティア、高校生、大学生、企業や行政まで多くの人々が手を取り合って運営を行った。森の中を散歩したり、みんなで童謡を大合唱したりと参加者は笑顔あふれる時間を過ごせた。今回は、シンポジウムを3回開催することで認知症についての正しい知識を身につけ、認知症の予防などに自然を活用する方法も提案した。



■実施場所：山田緑地
■開催日：第6回もりフォーラム 平成23年10月22日
第1回シンポジウム 平成23年10月7日
第2回シンポジウム 平成23年10月22日
第3回シンポジウム 平成23年11月10日
■参加者数：1,471人

北九州市道路サポーター

道路周辺の清掃活動を自主的に行っている地域の団体や市民センターをサポートする事業を北九州市より受託。掃除用具や花の苗、土を提供するなどの支援を行った。北九州市西部の計75団体に支援を行い、意欲の高いボランティア活動を行っている人々とのネットワークができた。



持続可能なライフスタイルを 里山的暮らしのデザインで

自然の中での活動

自然の魅力を再発見し、
持続可能な使い方を考える

都市での活動

都市でもできる
里山的暮らしのデザインを提案

つなぐ活動

人と人を、
コミュニティとコミュニティをつなぎ、
よりよいまちづくりを

北九州スマートコミュニティ創造事業

北九州市の成長戦略に位置づけられるスマートコミュニティに、里山を考える会はコミュニティ部会として参加した。多くの企業や団体が東田エコクラブに集まり、自然エネルギーの賢い使い方や、どうしたら東田の人が住みやすく、住んでよかったと思えるまちづくりを行えるか、などを話し合った。



国際交流 (IE-bar)

東田エコクラブでは、留学生や旅行者、研修などで日本に来ている海外の方を招待し、交流会を開いている。日本人参加者も里山スタッフにとどまらず、県外者や環境・国際NPO、会社員など、顔ぶれも様々。自国の文化、食生活、グローバルな話題まで多岐に渡る分野の交流を英語、日本語を交えて行っている。



未来ホテルデー'11

「みんなの暮らしが未来をかえる！」をテーマに、平成23年度も環境について楽しく学べるイベントを市民団体、企業、行政、学識と協働で開催。イベントを通してエコを体験し、楽しみながら学べようだった。今回は子どもサッカー教室や「チリメンモンスターを探せ！」など新たなイベントも行い好評だった。



■実施場所：北九州市環境ミュージアム
北九州エコハウス、および周辺施設
■開催日：平成23年6月4日、5日
■来場者：6,975人

特別展示

東京で開催されたエコプロダクツ展に関連して、平成22年度に環境ミュージアムでもエコ文具展を実施した。この取り組みがきっかけとなり、環境ミュージアムで、その後もスタッフが視察・調査を行い、特別企画展を実施している。平成23年度は、「地球にやさしい夏の過ごし方」や「バイオマスプラ大研究」、「エコカーのひみつ」など、身近なテーマを扱うことにより、小さな環境配慮の重要性をPRした。



■実施場所：北九州市環境ミュージアム

他にも・・・

- 環境バスポートセンター
- 北九州エコライフステージ 協力、出展
- 八幡東田まちづくり連絡会 協力
- 北九州・平尾台トレイルランニングレース
- 水素実証住宅「ひがしだH2」

グリーンマップ

地図を作るという行為を通して、身近な環境を見直すことができる「グリーンマップ」。リバーウォーク北九州のゼンリン地図の資料館にて、グリーンマップの展示と、実際に親子で小倉の街を歩きグリーンマップを作るワークショップを行った。その後、環境ミュージアム、山田緑地、エコライフプラザと、持ち回りでワークショップを行い、参加者には身近な街の魅力を再確認していただくことができた。



「わたしたちができること」

東日本大震災において里山を考える会は、復興のお手伝いのできたらという思いを込め、「義「緑」金」ボックスを運営する各施設に設置しました。ご協力ありがとうございました。現地での活動としては、福島県いわき市の放射能の問題で外で遊ぶことを制限された子どもたちのために開催された片山右京氏のチャレンジスクールへ、スタッフが子どもたちを元気づけるためのお手伝いをさせていただきました。また、以前から北九州市と親交のある岩手県釜石市に実際に赴き、市が復興策の一つとして推進しているキッチンカープロジェクトに寄付を行いました。今後現地のNPO同志のつながりを活かし、顔の見える復興支援を行っていく予定です。

